令和２年度
横浜市立高等学校及び併設型中学校

第 三 者 評 価 結 果

横浜市教育委員会

＜ 目　　次 ＞

Ⅰ「横浜市立高等学校及び併設型中学校」の学校評価 ･･････････････････ 1

Ⅱ　令和２年度第三者評価について ･･････････････････････････････････ 2

１　実施概要

２　評価者及び訪問調査校

Ⅲ　訪問調査校の評価 ･･ 3

１　横浜商業高等学校　　･･ 4

２　戸塚高等学校　　･･12

Ⅰ「横浜市立高等学校及び併設型中学校」の学校評価

市立高校及び併設型中学校は、学校評価の基本である全教職員による自己評価と保護者や地域、その他学校関係者等による学校関係者評価を行うとともに、年間２～４校に対し教育活動その他の学校運営について外部の専門家等による第三者評価を行います。

市立高校及び併設型中学校の学校評価は、次の手順で実施します。

１　自己評価

各学校は、校内評価委員会を組織します。校内評価委員会は、教職員による学校評価、生徒による学校評価、授業評価、保護者及び地域による学校評価を組織的に行い、評価結果の分析により課題を明らかにするとともに、学校関係者評価の結果を踏まえ、重点課題の改善策を中心に「自己評価書」を作成します。

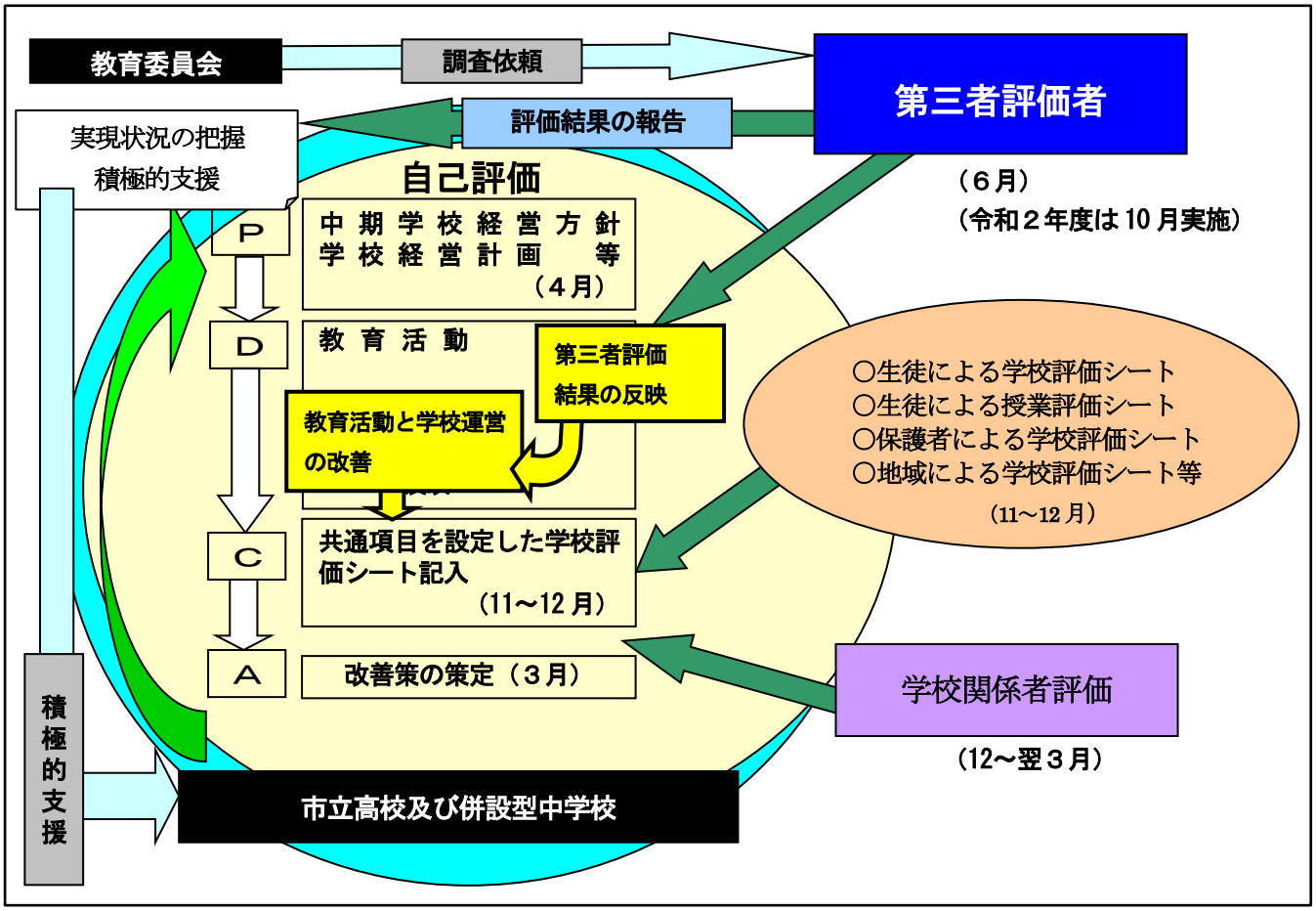
２　学校関係者評価

各学校は、学校関係者評価を実施するため、生徒の保護者や地域、その他学校関係者等によって構成される学校関係者評価委員会を組織します。学校関係者評価委員会は、各学校でまとめた評価の結果等を活用するとともに、授業や学校行事等の教育活動を観察し、「学校関係者評価書」を作成します。

３　第三者評価

教育委員会は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による評価者（以下「第三者評価者」という。）に調査を依頼します。第三者評価者は、教育活動その他の学校運営について、年間２～４校の訪問調査を行います。調査結果は教育委員会が取りまとめます。

＜市立高校及び併設型中学校 学校評価の体系図＞



Ⅱ　令和２年度第三者評価について

１　実施概要

（１）　実施方法

①　１校につき３名の評価者が訪問します。

②　評価者は、令和元年度の「自己評価書」「学校関係者評価書」及び令和２年度「学校経営計画」について主に重点取組項目を中心に校長から説明を受けた後、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）及び在校生からのヒアリング等を通して評価します。

③　教育委員会は、評価者からの評価と講評をとりまとめ、第三者評価結果を作成し、公表します。

（２）　訪問調査校及び日程

ア　訪問調査校

横浜商業高等学校、戸塚高等学校

イ　実施日程

10 月 28 日：横浜商業高等学校

10 月 30 日：戸塚高等学校

（３）　活用

ア　学校は、評価結果を教育活動及び学校運営の改善に反映させます。

イ　教育委員会は、各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置などの施策に生かします。

２　評価者及び訪問調査校

評価者氏名	所　　属　　等	訪問調査校
植田　みどり	国立教育政策研究所　総括研究官	横浜商業高等学校
福田　昌弘	横浜市立早渕中学校　校長	横浜商業高等学校
中丸　道江	横浜市ＰＴＡ連絡協議会　会計	横浜商業高等学校
浜田　博文	国立大学法人筑波大学 人間系（教育学域）　教授	戸塚高等学校
岩谷　伸一	横浜商工会議所　推薦	戸塚高等学校
野中　慎一郎	横浜市ＰＴＡ連絡協議会　会計	戸塚高等学校

※所属等は調査時のものです。

Ⅲ　訪問調査校の評価

横浜商業高等学校の概要

創　　立：明治 15 年
住　　所：横浜市南区南太田２－30－１
課 程 等：全日制の課程
　　商業に関する学科
　　（商業科・ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ科）
　　国際学科
クラス数：21 クラス
生 徒 数：823 名（令和２年４月１日現在）
　　商業科　　591 名、ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ科 117 名、
　　国際学科　115 名
学 校 長：磯部　修一

戸塚高等学校の概要

創　　立：昭和３年
住　　所：横浜市戸塚区汲沢２－27－１
課 程 等：単位制による全日制の課程
　　普通科（一般コース・音楽コース）
クラス数：24 クラス
生 徒 数：948 名（令和２年４月１日現在）
　　一般コース 836 名、音楽コース 114 名
学 校 長：植松　聡

横浜市立横浜商業高等学校

（１）魅力ある学校づくりの推進状況

観　点	評価1	評価2	評価3	評価規準
市立高校の魅力づくり	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
進路希望実現への支援	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
市立高校における グローバル人材の育成	A	A	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない

【市立高校の魅力づくり】

✧ 商業科、国際学科、スポーツマネジメント科の３つの専門学科それぞれが特色を生かした教育活動を展開し、生徒の学習ニーズや進路希望にも対応しており、生徒の学校への満足度は高いことが把握できた。

✧ 少子化問題や多岐にわたる進路選択ができる中、商業高校としてそれぞれの個性を伸ばし専門的な知識の取得や研修、大学の授業見学など様々な進路に向けての指導等、魅力ある学校作りに十分に取り組んでいる。

✧ 商業の専門高校として、生徒募集など難しい時でありながら、横浜商業高校としての伝統を継承し、かつ新しいビジネス教育を実施していることは大変評価できる。

✧ 商業科の YBC クラス２年生に開講されている「課題研究」では、大学及び企業と連携した活動を行っている。単に授業として終わるのではなく、実社会との接点を持ちながら、実践的な内容を行っている点が評価できる。また、授業においても生徒自身が主体的に考え、協働的に取り組めるような探究型の授業が行われている点も評価できる。

✧ 商業科での英語教育を伸長するために何をすべきかを、検討する必要がある。商業科における重点目標である実用英語技能検定の目標値の設定や定着方法などを一考する余地がある。

✧ スポーツマネジメント科は、学校関係者評価にも指摘があるように、入学前と実際の学びや取組、進路とのズレが生じないよう、きめ細やかな情報発信が必要である。

✧ スポーツマネジメント科については、充実した施設、トレーナー資格を有する教職員の常駐など恵まれた側面もある。一方で学科の目的や専門学科としての特色に合致した教育課程編成の見直し（特にマネジメント分野）及び専門性を持った教員及び外部人材の確保など、今後のさらなる充実のための取組に期待したい。

✧ スポーツマネジメント科においては、商業科と運動系部活動との協働により成果をあげていることも評価できる。

✧ 国際学科での英語技能検定の合格の割合が高く教員の指導力の高さがうかがえる。

✧ 入学してきた生徒が何を学び、こんな活動がしたいといったビジョンが他の高校に比べはっきりしていると感じた。

【進路希望実現への支援】

✧ 入学時点から生徒の目的意識が普通科の高校と比べ高い傾向にあり、高校生活の中でのアプローチも含め実現に向けた支援は実践されている。

✧ 簿記や英検など様々な検定を積極的に受けさせている点は評価できる。生徒自身もそのことに価値を見いだしている。今後も検定受験を促進させ、合格実績を上げると共に、生徒が明確な目的意識や進路意識をもって検定を受けるための指導助言を行い、検定が生徒のよりよい進路実現につながるように期待したい。

✧ 生徒の進路実現のために、自分づくりパスポートなどを活用して着実に行っているが、専門学科を有する高校として、より生徒の進路希望を実現するための教職員の体制整備を行うことで実績を上げていくことを期待する。

【市立高校におけるグローバル人材の育成】

✧ 国際学科を併設することによって校内の英語教育だけではなく、かつ国際理解教育の推進が大きな柱となっている。

✧ 学校関係者評価の結果ではまだ課題があるとのこと。生徒会役員の懇談において、満足していると聞いているが、更なる向上に期待しています。

✧ 英語技能試験の取得率の高さから、目標は概ね達成されている。

国際学科：YSF(Yokohama Student Forum)

（２）教育活動の状況

観　点	評価1	評価2	評価3	評価規準
《教科指導》 生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	A	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
	C	C	C	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない
《進路指導》 進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	Ⓐ	A	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
	Ⓑ	B	Ⓑ	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
	C	C	C	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

【教科指導】

✧ 板書ではなくプロジェクターを用いての授業が実践されていた。どのクラスでも同じ内容を提供できる点ではとても有効であり、生徒へ目を向ける時間の確保ができるなどメリットが感じられた。

✧ 見学した授業（国語）では、クラスを分割して実施していた。受け身の授業ではなくグループワークを取り入れることにより生徒の意見を引き出し、どの教科も学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実践している様子が見取れた。

✧ 多くの教科の教員が楽しそうに授業を行っており、生徒も集中している様子であった。

✧ メンターチームを立ち上げ、授業改善を図っていこうとする教員からの自主的な動きがあることは素晴らしいことであり、今後の推進を期待する。

✧ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業期間中も、教員が学習動画を作成し、配信することで生徒の学習機会を保証し、学力向上に努めたことは評価できる。

✧ 学校は、家庭学習の習慣に課題を感じている。学習動画配信するだけでなく、学習状況の把握や学習の定着状況を把握しながら、学習成果を上げていくための、家庭学習の習慣化や、学習の定着状況を把握しながらオンライン学習を行うことができる仕組みなどさらなる取組が必要である。学校も課題として認識しているので、具体的な取組の着手を期待したい。

✧ 家庭学習については、コンスタントな課題、こなせる量で回収できるよう工夫しているとのことであったが、学校だけに任せるのではなく各家庭での声掛けや環境作り等、両者の協力が必要である。

✧ 商業科目の授業に関しては、高大連携や企業連携など様々な工夫がされ、授業改善が実践されている。ただ、普通科目における授業改善の工夫については、課題がある。

【進路指導】

- ✧ 進路ガイダンスを効果的に実践し、入学の早い段階から生徒への意識付けを行っていることについては評価できる。早い段階から進学や就職の意識を生徒に持たせ、目標達成に向かって取り組ませている教育実践は効果的である。
- ✧ 進路希望実現への支援では、将来を見据えた細やかな指導が一年生よりなされている。また、学年に合わせたタイムリーな指導が生徒の満足度にあらわれていると感じた。
- ✧ 生徒との懇談において、日頃より「意欲を持って学ぶ」ことの大切さや普段の思いなどメモを取る習慣を指導されているとの話があった。社会に出るにあたりとても重要な視点だと思うとともに、きめ細やかな指導がされており、生徒の充実感も強いことを感じた。また、将来に向けて検定試験で資格を取得することはとてもやる気がでて、一生懸命に取り組めると目を輝かせ話している様子がとても印象的であった。
- ✧ 多様な進路選択があるだけに、教員の指導も苦労されていると思うが、自己評価の改善策に記載されているように「生徒がいつでも相談できる環境作り」を推進させていくことを期待する。

YBC クラス講演

（３）学校経営の状況

観　点	評価1	評価2	評価3	評価規準
《組織運営及び教職員研修》 教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	Ⓐ	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
	Ⓑ	Ⓑ	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
	C	C	C	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない
《保護者・地域等との連携協力》 学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	A	A	A	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
	C	C	C	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある

【組織運営・教職員研修】

✧ 経験年数の浅い教員も多くなり、人材育成が課題となっていることから、今年度よりメンターチームを設置し、定期的に研修会を開催している。経験年数の浅い層の研修が活性化するとともに、ミドルリーダーの育成にもつながる。教師力の向上のほか、教員同士のコミュニケーションが図れている様子であり、校内全体へと広がっていくことが期待される。このような動きは評価でき、授業改善及び人材育成の成果に期待する。

✧ よい授業実践や考える視点などを掲載した「副校長だより」を定期的に作成し、配付している取組は評価できる。よい実践を共有し合いながら、相互に学び合える組織作りを継続して推進していくことを期待したい。

✧ 働き方改革として、朝の打ち合わせの中止・部活動の帰宅時間の設定の取組は、評価できる。教員の業務の多さによる長時間労働が課題とされるなか、校内ネットワークを活用し、朝の打ち合わせをなくすなどの時間の有効活用や、職員室に教員が集まることで密になることを避けるなど、様々な取組を行っている点は評価できる。

✧ 組織のシステム化を行うことは、なかなか難しいこととは思うが、管理職のリーダーシップのもと、組織力の向上に向けた取組がなされている。教員研修の機会の確保については、意識的に取り組み、組織のシステム化や生徒理解・授業力向上など様々な面での改善につなげていくことを期待する。

【保護者・地域等との連携協力】

✧ 新型コロナウイルス感染症の影響もありホームページを使った情報発信については、どの学校も苦労されている。特に、高等学校はどの分掌が何をどのように発信するかなど、組織的に情報発信することがなかなか難しい。システム化を図りできる限り早く、正確な情報を発信することができており、継続して取り組むことを期待する。

✧ 地域の活動の中で、地域の老人クラブ向けのパソコン教室は世代間交流として素晴らしい取組だと評価できる。その内容は一方的ではなく、マナー評価をしてもらうことで生徒は自己の振り返りや社会へ適応できる人材育成といったことに繋がる教育、「心の誠」が実践されている素晴らしい取組である。

✧ 近隣の小学校での英語の授業や非行防止教室、商業科総合実践の授業の一環として行う地域の老人クラブ向けのパソコン教室の開催、交通安全啓発のイベントでのバトン部の参加など、Y校が地域の学校としてなくてはならない存在になっており、これからもこの「繋がり」を大切にしていくことを期待する。

商業科：課題研究（PC 講座）

（４）いじめに関する項目（いじめへの対応）

✧ いじめ防止対策に向けて組織的に取り組んでいる。いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、生徒一人ひとりの状況把握をすると共に、養護教諭やカウンセラー等とも連携し、迅速な対応ができるような体制整備を行っている点は評価できる。

✧ 生徒会役員との懇談において、クラスの雰囲気等を聞いても、生徒同士の仲の良さが伝わってきた。どこの学校にも共通する事であるが、大なり小なりいじめにつながる事案はあると推察する。学校関係者評価にもあるように他の生徒の目が気になり回答できない生徒がいるとのことだが、回答しやすいアンケートの工夫や、小さな声を拾えるアンテナを常に張り、相談等しやすい雰囲気作りの実践を期待する。

（５）総合所見

✧ 近年、全国的に商業科の数も少なくなってきている中で、商業科目において、高大連携や企業連携を図り、生徒の興味関心を持たせる内容で授業を構成し、生徒の自主性を尊重した授業内容となっていることは大変興味深かった。

✧ 新学習指導要領の実施に向けて作成されたグランドデザインの実現に向け、教育課程編成及びそのための校内体制の整備について、課題認識を持って着実な準備が進められている点は評価できる。

✧ 今後、学習指導要領の改訂や大学入試制度の改変など、様々な変化があると思われるなか、市内や県内だけでなく全国的な規模での情勢をしっかりと把握し、変化に対応できるだけの組織づくりが求められる。今後も、管理職のリーダーシップの中、より良い学校づくりを期待する。

✧ 研修会を定期的に持てると、組織的な学校運営に大きく効果が出る。特に、メンターチームについては、経験年数の浅い教員が多い現状の中では、学校の活性化の面で大変有効な実践であり、今後も継続して活性化を図っていくこと、また、この実践が横浜市立高校の範となって広がっていくことを期待する。

✧ 働き方改革において、様々な取組がなされているが、まだまだどの学校も教職員の業務負担が多いように思う。教職員側の改革だけでは厳しい面もあるので、これからは、学校だけに全て任せるのではなく保護者も担える部分は担っていく。教職員・保護者・そして地域、この 3 本柱で支えていくことで、教職員の負担が軽減され、心の余裕ができ、その分生徒と向き合う時間が取れることを期待する。

✧ プロジェクターを用いた授業では、どのクラスでも同じ内容で行え、板書を極力なくすことで生徒へ目を向ける時間が増えるとともに、教員の授業準備の効率化が図れるメリットがある。

✧ 臨時休業中の学習動画作成においてさらに良い物を作成しようと教科を超えて評価・工夫があり、教員同士が配信を視聴し、話し合うことで様々な「気づき」が生まれたとの話があった。その結果として臨時休業中に 250 本を超える授業配信に繋がったと感じた。生徒は「学びを止めない」教員の思い入れを感じたり、学校を身近に感じたりすることができ、保護者や視聴した生徒も不安の解消になったのではと感じた。

✧ 歴史のある学校であるだけに、地域の連携は様々な行事において実践されている。このことにより、学校理解については図られていると感じた。特に、地域の老人クラブ向けのパソコン教室については、大変興味深かった。

✧ 生徒との懇談で、将来を見据え、目的意識をしっかり持ち日々の学業に励む「今」を精一杯過ごし楽しんでいる姿がとても印象的だった。学校での生活が本当に充実し楽しいことがとてもよく伝わってきた。これは、日々の教職員の取組の成果と考えられる。そして、普通科高校でなく商業高校へ進学したという、しっかりとした目的意識を感じた。このことは、入学後の学習意欲にもつながっていると感じた。

✧ 創立 139 年の歴史ある伝統校、随所に初代校長である美澤先生の足跡を感じられるとともに、時代に合った教育、Ｙ校の基本精神「誠の心」が生徒にしっかり受け継がれていると感じた。

✧ 校長をはじめ教職員もＹ校を誇りに思い大切にされている。臨時休業にも多くの学習動画作成を教員が自発的に取組んでいた。学習動画だけではなく、不安であったろう生徒へ向けて学年の動画配信などは、保護者の視点からも胸が熱くなる思いがした。常に生徒のために最適な環境作りやより良い教育に努める姿が伝わってきた。

✧ 特色のひとつである部活動の充実が重視されており、市のガイドラインに基づいて帰宅時間を守るなどの取組に積極的に取り組んでいる。今年度にはドラフトでプロ野球球団に入団が決定する選手を輩出したり、全国大会に出場したりする部があるなど、実績も上げている点は評価できる。

✧ 管理職には「魅力ある学校：Ｙ校という１つのものを見せる特色が出せないか」との思いがあり、このままでも十分であると感じるが、さらに魅力ある学校にしていくためには、地域と共に歩み成長していくことで増々の発展がなされることを期待します。

✧ Ｙ校らしさとは何か。「ここでしか学べない・ここで学びたい」と思われ選ばれる学校作りを目指してほしい。

✧ Ｙ校として地域に愛され、誇りとされている同校であるが、国際学科、スポーツマネジメント科という新たな学科を創設したことで商業高校としての新たな側面も加わった。10年近くたっている現在だからこそ、改めてＹ校としての取組を検証し、新たな魅力づくりをして行く時期である。そのために、商業科 YBC クラス及びスポーツマネジメント科もそれぞれの取組の成果及び課題を検証し、今後のさらなる発展のための方向性を提示していく必要がある。現状では、課題認識にとどまり、その課題解決のための行動計画の立案及び行動への着手までには至っていないといえる。今後は改善活動の成果と課題を把握し、検証を行いながら、着実な改善活動を行うことが求められる。そうすることで、新たなＹ校としての魅力がうまれると考える。今後はその取組をより着実に進められるように、活動の進捗状況を把握し、その活動成果を検証しながら、着実なグランドデザインの目標の実現を期待したい。そのためには管理職のリーダーシップとマネジメント力が重要である。管理職はこのことに関する認識を持っているので、検証活動の着実な実施を期待したい。

部活動（ボート部）

横浜市立戸塚高等学校

（１）魅力ある学校づくりの推進状況

観　点	評価1	評価2	評価3	評価規準
市立高校の魅力づくり	A	Ⓐ	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	Ⓑ	B	Ⓑ	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
進路希望実現への支援	Ⓐ	Ⓐ	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	Ⓑ	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない
市立高校における グローバル人材の育成	A	Ⓐ	A	取組が各校の目標以上に進んでいる
	Ⓑ	B	Ⓑ	取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	取組があまり行われていない

【市立高校の魅力づくり】

✧ 「自主・協働・連帯」という教育目標に照らしてみると、生徒は自信と誇りをもって学校生活を送り、生徒会活動をはじめ、様々な学校行事や部活動などにも主体性をもって参画している様子が見取れる。

✧ 生徒は地域との連携事業を通じて人と人のつながりを学び、人間力の向上につなげている。地域は信頼できる学校があることで安心を覚えている。相互において魅力ある連携ができている。

✧ 特色の一つである「音楽コース」は、「音楽家になりたい」「生涯、音楽を楽しみたい」「音楽関係の進路を目指したい」といった多様な生徒を包摂しながら、一般コースのカリキュラムとのコンビネーションも工夫されており、入学した生徒にとっては魅力ある内容を提供している。

✧ 音楽コースでは、音楽に特化した将来を目指すよりも音楽に携わる仕事や活動を続けていきたいという中間的な位置づけとのことだが、音楽に触れながらゆっくり将来を考えることができる点は魅力である。

✧ 音楽コースについて、外部から招聘する特別講師や充実した音楽施設等があること。生徒が学んだ音楽を実際に様々な人に様々な場所で発表、提供していることが特色である。この点を活かして学校のイメージを豊かにし、認知度を高めて、今後発展していくことを期待する。

✧ 生徒へのヒアリングでは音楽コースの生徒が音楽コースの位置づけを理解していることが安心ポイントである。これは学校の説明がしっかりとできていると判断できる。これらのことをもっと積極的に推進し、学校外にも理解を深めていくことで「音楽コース」が特色となりえる。

✧ 音楽コースは志願者数が伸びていない点が気になる。在籍する生徒の満足度を踏まえて、意識的に中学校教員や中学生・保護者に向けてPRをする必要があると考える。

【進路希望実現への支援】

✧ 講演会、説明会、大学出張講義等の実施、様々な進路のガイダンスの実施、学力診断テストや模擬試験等も行い、生徒の進路に関する様々な取組がなされている。その中で生徒自身が進路に関心をもち、自己分析ができるようになり、自分の意志で進路を決定できるように成長している様子である。

✧ 教職員アンケートの結果や、生徒へのヒアリングでは概ね評価は高い。取組としてオープンキャンパスへの参加は生徒への刺激となるし、目標を設定するキッカケにもなる。また、保護者アンケートの分析も正確に行われており、取組課題につながる動きができている。保護者としては安心材料である。

✧ 進路希望の実現については、単位制を生かして個々に応じた丁寧な支援がなされている。高校生の段階で進路についての明確な目標を持つことは容易ではないが、多くの情報を入手しつつ考えたり迷ったりすることが重要なことである。そのような生徒の悩みや迷いを前提として、ガイダンス部、年次、教科などの間で情報の共有と交流をしながら支援を続けることが、引き続き求められる。

✧ 音楽コースでは指定校推薦枠が増えておりアピールポイントになる。

【市立高校におけるグローバル人材の育成】

✧ 留学生や海外との交流活動の取組も重要な位置づけにあるので、「グローバル人材」の概念をもう少し広く解釈して、英語に囚われず、様々な教科指導の中で国境を越えた地球規模の課題（SDGs で挙げられている貧困、環境、差別、平和など）を意識した内容を取り扱うなどすれば、さらにグローバルな感覚を身に付けた人材の育成が進むと思われる。

✧ 英検２級の取得率の目標値を定めてステップバイステップで英語力の向上を進めている点は評価できる。

✧ 英検取得者数の目標はシンプルで分かりやすいが、数名の上級取得者ではなく全体の底上げが見えないと評価につながりにくいと思われる。取組の継続性に期待する。

✧ 英語力の向上については、授業内容に工夫を加え、英語に接する時間を多くし、一定の成果を出している様子である。また、英語だけでなく、台湾やミャンマーとの交流を通して、国際的な交流体験を増やしているのは好感が持てる。国際交流で視野を広げ、ただ単に英語を話せるだけに終わらせずグローバルに世界を考え活動できる人材の育成に資する様子である。

音楽コース授業

（２）教育活動の状況

観　点	評価1	評価2	評価3	評価規準
《教科指導》 生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	A	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
	C	C	C	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない
《進路指導》 進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	A	A	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
	Ⓑ	Ⓑ	Ⓑ	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
	C	C	C	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

【教科指導】

✧ 教科ごとに、生徒の実態を捉えて指導計画を工夫し、学習内容・進度・教材の共有化を図りながら授業改善を進めていると自己評価されている。授業の様子から、クラスの生徒集団は学習に積極的な雰囲気をもっており、教師と生徒集団との関係も良好に形成されている様子が見て取れた。こうした雰囲気の醸成は、一人ひとりの生徒を教師が大切に思い、実態に基づいた細やかな指導をしていることからなされていると受けとめられる。

✧ 今年度の場合、新型コロナウイルス感染症の影響により、一斉授業の以外の活動形態を取り入れにくいという条件があったと理解するが、良好な関係を生かしてアクティブ（主体的で対話的）な学びの方法を取り入れることができれば、さらに学力や学習意欲の向上につながると期待できる。

✧ 戸高研*1 のリードで行われている校内授業研修と各教科の研究授業、授業評価に基づく授業改善の取組などについては、個別的な取組ではなく、学校の教育目標、年次・コースの教育目標、当該年次の重点課題のつながりを意識しながら進めることを期待する。教育課程に対する教職員の共通認識が形成され、より開かれた授業改善の取組に発展できる可能性がある。

*1 有志による研修会、将来構想につながる課題に取り組む

授業風景　（一般コース）

【進路指導】

✧ 大学入試の改革が不安定になり、的確な情報入手が難しくなっている。その中で、講演会・説明改革・出張講義などの企画を着実に行うことによって生徒の進路意識の向上に努めていることは評価できる。

✧ 教員も模擬試験のデータ分析について研修を行うなど、地道な取組がなされている。

✧ 多種多様な進路を目指していることを踏まえるなら、進路指導よりも広い「キャリア教育」という概念で生徒の将来に向けた指導全体を捉え、どんな進路を選択する生徒にも必要とされる汎用性の高い能力を教職員間で意識して教科指導や行事・活動の内容と結びつける発想の推進と実践を期待する。

✧ 訪問調査の際、学校から「教職員の意識の共有」「家庭学習の不足」「進路の準備の多様性への対応」が課題として挙げられた。この問題を全体で共有し、問題解決への議論を始め、原因を特定し、改善方法に知恵を出し合い、ＰＤＣＡサイクルを回して目標課題解決されることを期待する。さらにこの取組が、問題解決につながるだけでなく、共通認識を生み、チームとしての一体感を強めていくことを期待する。

自習風景（図書館）

（３）学校経営の状況

観　点	評価1	評価2	評価3	評価規準
《組織運営及び教職員研修》 教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	A	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
	Ⓑ	Ⓑ	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
	C	C	Ⓒ	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない
《保護者・地域等との連携協力》 学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	Ⓐ	Ⓐ	Ⓐ	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
	B	B	B	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
	C	C	C	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある

【組織運営・教職員研修】

✧ 自己評価の課題として年次単位、教科単位での意識は高いが、年次や教科を超えた組織としてのつながりが全体として弱いことが挙げられている。個々の教職員が抱く課題意識を学校組織としてまとめ、ビジョンを共有するための仕掛けを積極的に考える必要がある。これは、形式上の「組織」ではなく、学校組織の中の教職員間のコミュニケーション回路の充実を目指すもので、その改革に期待する。音楽コースに対する理解の促進もそこにかかっている。

✧ 「今後、学校としてどうアクションをするのかということになった時のリーダシップをどこの組織が取るのかという問題を解決しなくてはならない。」と課題が挙げられているが、このことは、リーダーシップだけでなくフォロワーシップやチームワークという問題を含んでいる。学校全体でチームという考えを浸透できるよう部署（教科・分掌・年次）を越えて活動する機会を増やすこと、部署横断の問題解決のプロジェクトチームをつくることで、部署間を結ぶ人が増えて大きな範囲でものを考え、様々な知恵を各部署に流通させることができるようになり、その実践に期待する。

✧ 戸高研 が全教職員に理解されているのであればこの取組も有益だと思うが、その部分がクリアされていないとすれば教職員の共通認識には繋がらないのではないかと推察される。少々厳しい所見となるが、日々時間に追われ、限られた時間の中で取り組んでいることが成果として実ることを願わずにはいられない。戸高研が主導する形態から、オブザーバーやサポーターの立場での形態での取組となるよう、継続して推進され発展していくことを期待する。

✧ 教科指導の改善とそのための授業改善の取組が、学校全体の目標や重点課題を意識して行われていると感じにくい。一方で、教職員には高い向上意欲が醸成されており生徒の希望進路の実現に向けて教科指導と生徒指導に積極的に取り組んでいる様子である。この点は学校として最も重要な要素であり、高く評価できるので、学校としてのビジョンを明確にしながら教育実践の改善に取り組むことができれば、一つひとつの活動の質はさらに高まる可能性があり、期待したい。

〔保護者・地域等との連携協力〕

✧ 地域の連合町内会や駅等との協力体制を整えていること、「戸高学び塾[*2]」を開講し、地域との防災研修を実施していることは特筆できる。可能であれば、もう一歩進めて実際に災害が起きたときの様々なケースへの対応策を議論して連携を推進していくことを期待する。

✧ 保護者、地域との連携については、生徒へのヒアリングからも申し分なく、地域、保護者、生徒からとても親しまれている学校であることを強く感じられた。

✧ 地域との連携・協働に力を入れて、保護者・地域・近隣小中学校とのつながりを構築する取組をさまざまなかたちで取り入れていることは高く評価できる。「戸高学び塾」や「まちとともに歩む学校づくり懇話会」をはじめ、部活などを中心にして近隣の方々との協働的な活動を進めており、地域貢献を意識していることも評価されるべき点である。防災研修の取組は、教職員と生徒が地域との関係を強く意識する契機にもなるので、地道に継続している価値が高く今後の発展に期待する。

✧ 戸高学び塾での地域とのつながりは、学校と地域との関係性に十分に貢献しているように感じた。また生徒もその取組を理解しており協働の重要性を理解しており、この点は評価できる。

✧ 生徒、保護者、地域からのアンケートでは全体的に肯定的な回答が多いが、教職員アンケートの教育活動にあたる項目では全体的なポイントダウンが目立つ。教職員の共通認識を課題とすることだけでなく、同時に一番の原因が何かを探ることも重要ではないかと考える。時間も限られていると思うが、教職員の議論の場を積み重ねることで共通認識をより深めていくことを期待する。

---

*2 地域学校協働活動事業を活用して、生徒・保護者・教職員と地域が共に学ぶ講座。

（４）いじめに関する項目（いじめへの対応）

✧ いじめ防止、早期発見に対する細やかな配慮に基づく取組は高く評価できる。とくに、単なる表面的な行為に囚われず、根底にある人権意識を高めるということを意識した教育はとても重要である。また、いじめ認知件数がゼロであったとしても、潜在的にいじめにつながる行為はあるはずだという認識のもと、些細な事案にもしっかり対応していこうとする方針とその取組も評価できる。

✧ 人権意識を高める教育としてさまざまな講演会を実施しているのも評価できる。

✧ 訪問調査における教職員説明にて、生徒へのアンケート結果や面談で得た“いじめ実態ゼロ”の結果を安心材料とせずに、私たちが見出すことができていないのではないかとの発想の転換で新たな検討をされており、いじめ防止対策委員会が機能している。

✧ いじめの範囲を厳密に考え、すべて網羅してとらえたとしても、個々の人の感じ方はいろいろあるので、いじめという範疇の中だけで解決策を模索してもいじめが撲滅できるかどうかわからない。教育の原点に立ち「一人ひとりの生徒が学校生活を幸せに送れること」、「この学校で人間として成長していけること」ができていれば、いじめはなくなっていると考えられる。そのためには、教職員全員でチームとなって、強い意識をもって生徒一人ひとりをケアしていける体制を作ることが重要でありさら推進していくことを期待する。

（５）総合所見

✧ 交通が至便であり、正門から校舎へのアプローチが清潔で明るく、校舎や諸施設の空間がゆったりとしていて充実している学校というのが外見からの第一印象である。教員からの説明、生徒会役員の生徒との面談、授業の様子の参観などから、教職員が本校で働くことを誇りに感じながら努力していること、生徒が前向きに勉学をはじめとする学校生活に取り組んでいる様子である。

✧ 戸高学び塾での地域とのつながりは、学校と地域との関係性に十分に貢献しているように感じた。また生徒もその取組を理解しており協働の重要性を理解しており、この点は評価できる。

✧ 生徒との懇談で、とても明るく素直にしっかりと自分の意見を述べられている姿は、学校での成長を物語っていると感じた。生徒会で自主的に一生懸命まじめに取り組んでおり、話す時のきらきら光る目が印象的であった。

✧ 自己評価の資料から、教職員の相互理解や一体感が内部の低い評価につながっているようであった。教育目標や方針等を、各教科、行事、部活動等の教育活動で具体的にどう担保して実現していくのかを教職員全体で議論しながら作り上げていく。その過程を通して、目標等と実際の現場の教育の繋がりが明らかになり、全体がそれを理解することで共通認識が生まれ、その意識をもって現場で実践することで教育目標等を達成していくことを期待する。

✧ 新型コロナウイルス感染症の影響で授業に制約があることがあるが、講義や伝達型の従来の教育方法が多かったように思った。戸塚高校の生徒たちは、集中力をもち自主的に学習できる様子であり、問題はないと考えるが、生徒たちの能力をさらに引き出す授業方法の改善のさらなる推進を期待する。

✧ 学問に興味をもち、とても好きになり、自分でどんどん調べて研究をして、それを学校生活や将来の仕事に役立てていけるような生徒たちへと成長させていくことを期待する。

✧ 情報化を進めることで教員の負担を軽減し、教員でしかできない本来の仕事に時間をかけられるようにし、教育の質を高めていくことを期待する。

✧ 広いグラウンド、大型ホール、複数の体育館、ゆとりある空間の図書館、機材が豊富なトレーニングルームは学校のアピールポイントになる。一方で、複雑な学校構造であるために、ユニバーサルデザインの取り入れなどを検討されてもよいと感じた。

✧ 教科指導の改善とそのための授業改善の取組が、必ずしも学校全体の目標や重点課題を意識したかたちで行われてはいないように受けとめられる。教師の意欲は高く、生徒の潜在力も高いという印象があるだけに、学校としてのビジョンを明確にしながら教育実践の改善に取り組むことができれば、一つひとつの活動の質はさらに高まる可能性がある。近隣中学校や地域・保護者との連携・協働が多様に行われているだけに、本校の特色をさらに強く打ち出すことができれば、志願者の獲得も希望進路の実現もさらに安定したものになると期待できる。

✧ 訪問調査においてグローバル人材の取組については、直接感じることはできなかったが、取組事例を拝見すると少しずつ前進していることがわかるので、日々の学校生活の中でもっと英語を目に触れるところへ取り入れてもよいと感じた。

✧ 中学３年生が戸塚高校を選択するアピールポイント、ビジョンが見えづらい点もある。なぜ戸塚高校なのか？に回答できる強みがあると全体の共通認識も構築しやすいと感じた。

✧ 戸塚高校の生徒であれば SDGｓの理解と取組は難しくないと感じられ、魅力ポイントの１つになりえる。生徒、保護者、地域からのアンケートでは全体的に肯定的な回答が多いが、教職員アンケートの教育活動にあたる項目では全体的なポイントダウンが目立つ。教職員の共通認識を課題とすることだけでなく、同時に一番の原因が何かを探ることも重要ではないかと考える。時間も限られていると思うが、教職員の議論の場を積み重ねることで共通認識をより深めていくことを期待する。

✧ 授業の様子や生徒へのヒアリングより、全体的に人間関係の雰囲気が良く、相互理解と協力を意識して行動できていることを感じた。また生徒は自分自身の将来像を意識できており、進学先や将来を定めやすい環境にあると感じた。これは、学校の魅力ある取り組みの成果でもある。

戸高学び塾：防災講演会

令和３年 １ 月発行　横浜市教育委員会事務局学校教育企画部高校教育課
〒231－0005　横浜市中区本町６－50－10
電話　045－671－3272　FAX　045－640－1866